

地域に根差した人材育成事業「こども学」

所属:奄美支局
氏名:松田美和子

奄美大島は、沖縄と鹿児島の間あたりに位置し、鹿児島県を行政区分とした離島です。近年では、都心からのアクセスが向上し、観光客が増加しているため、馴染みがある人も多いでしょう。羽田、伊丹、福岡、鹿児島をはじめ、奄美群島の近隣の島と直行便が就航しています。その他、片道数千円程で就航ができる格安航空会社バニラエアも成田空港と関西国際空港から就航していて、海や山などの豊富な観光資源と、沖縄とも鹿児島とも違う独特な文化を体験できることが観光客を魅了しています。

奄美大島内の自治体である奄美市、宇検村、龍郷町、大和村は、本研究所の「広域自治体連携コンソーシアム」に加盟しており、平成30年2月19日に奄美市の中心市街地の商店街にて、大正大学地域構想研究所奄美支局を開局しています。本拠点を中心に、平成29年度より2年間地域実習の受け入れ地として地域と交流を行ってきました。また平成30年4月から、地域に根差した事業の一環として、地域人材育成を目的とした「こども学」を開催しています。今回は、この「こども学」についてご紹介します。

本事業は、小学3年生から中学3年生のこどもを対象とした体験型の人材育成事業です。相手への思いやりを育む「こころの育成」、キャビンアテンダントやアナウンサー等の憧れの仕事を学ぶ「キャリア育成」、遊ぶことで他者との関係性構築や癒しを学ぶ「あそびの育成」、これらの3つを柱として企画・運営を実施しました。

4月から12月までの期間で全10講座、14回を開催。合計で187名のこども達が参加し、大盛況で終えることができました。企画にあたり、連携自治体及び教育委員会（奄美市、奄美市教育委員会、宇検村役場、宇検村教育委員会、龍郷町役場、龍郷町教育委員会、大和村役場、大和村教育委員会）にご後援を頂き、スタートしました。企画から実施まで2カ月程しかなく、且つ、初年度の事業にもかかわらず、ここまで期待以上に多くのこども達が参加してくれたのは、教育委員会を通して学校で案内していただいたことで、参加者が安心して講座にお申し込み頂くことができたからだと思います。また、南海日日新聞社、あまみエフエムを運営する特定非営利活動法人ディの民間2社にもご後援を頂き、告知だけでなく、講師としてもご参加いただき、こども達の笑い溢れる講座の企画提案にご協力を頂きました。



写真①：
6月開催「ラジオのおしごと」で
生放送を体験

一部、講座が分かる様子として写真と共にご紹介します。

6月に開催した特定非営利活動法人ディによる「ラジオのおしごと」は、3回に渡って、ラジオの電源の入れ方から、ラジオパーソナリティー体験、最終日には本支局に特設ステージを設置して、こども達による30分の生放送を実施しました。

『うがみんしょ〜らん!』と奄美大島の方言で元気に挨拶をして、最近あった面白いエピソードを一人ずつ読み上げます。人前で話すことで、聞き手のことを思いながら伝えることへ工夫を凝らしていたのが印象的でした。こちらのこども学は、読み書きの学びではなく、身体を使って体験する学びが中心となっています。

また講師のほとんどが、奄美在住の方々です。普段接している、周りの大人の職業を理解することで、仕事がより身近なものに感じられ、地域間交流も増すのではないかとの思いを込めて実施しています。しかし、企画段階では、依頼をする講師の方々との接点がほとんどありませんでした。ご後援を頂いた団体様や、本局で就業をしているスタッフの紹介で地元の方々への接点を持つことができたことで、地域ならではの表現ができるのではないのでしょうか。



写真②：
8月開催「建設のおしごと」で
観光案内板を製作

8月開催「建設のおしごと」では、鹿児島県建設業青年部奄美支部の方と観光案内の看板を製作しました。「こども達に奄美の地図に残るお仕事を実感してもらいたい」と熱意あるアイデアを頂き、担当者が鹿児島県庁へ相談してくれていました。当日は、コンクリート車の手配をいただき、本物の素材を使って、セメント土台作りを行いました。また、看板内にある観光名所や野生植物などのイラストも子ども達の作品です。そして11月の野外イベントでは、除幕式を行い、現在では公共施設前にて設置されています。



写真③：
11月開催「キャビンアテンダントの
おしごと」は本格的な制服で実施



写真④：

12月開催「アナウンサーのおしごと」で
実際原稿を練習

11月開催「キャビンアテンダントのおしごと」では、本格的にこどもサイズの制服を取り揃えて実施しました。12月開催「アナウンサーのおしごと」では、南日本放送の現役アナウンサーから原稿の読み方を教えていただき、講座開催の様子が夕方のニュースで放送されました。

年間10講座と限られた機会でありながら、どの講座も私一人では到底できないであろう、密度の濃い内容を実施することができたのは、地元の方々の職業、地域、そしてこども達に対する熱い想いと、ご協力の賜物です。

今後の活動方針として、多少の運営体制の見直しは必要ですが、「こども学」の継続実施をしていきたいと考えています。例えば、前は1回りの約3週間での短期募集でしたが、時期や、募集申し込みの世代に合わせて、上手くインターネットを活用した募集に変更する等です。すぐに大きな変更ができなかったとしても、2年、3年と少しずつ形を変えて継続していくことで周りへの認知度も上がり、奄美支局という場所を地元の人にもより一層活用してもらえらるでしょう。今後は、地元の方からの意見を集約できるような場所へと発展させ、また先述したような観光客と地元の人を繋げるような事業を新しく構築していく可能性を秘めています。まだまだ構想段階ですが、まずは地域に根差した拠点を活かしながら、小さいながらもコツコツと実績作りを続けていくことで、地元の方々により一層活用してもらえらる環境を整えていきたいと思っています。